

特色をいかした進学指導を目指して

秋田県立秋田工業高等学校 畠山 恒俊

本校は明治26年に創立、秋田市の中心部に位置する長い歴史と伝統を誇る工業高校である。卒業生も2万名をこえ、オリンピック金メダリスト遠藤幸雄氏、プロ野球で大活躍した落合博満氏、ラグビーの吉田義人氏、同じくサントリー監督上田雅人氏など全国的に知られた著名な人材を数多く輩出している。文武両道、質実剛健をモットーとし、ものをつくる第一線の技術者の育成をめざしつつ高校時代は伸び伸びと好きな事に打ち込む校風を備えている。実績的にも、ラグビー、駅伝、ソーラーカー、コンクリートカヌーなどよく知られた運動部、課題研究が多い。

進学について

近年進学と就職が半々ぐらいになってきたが、カリキュラムは進学者に対して特別考慮した編成にはなっていない。どこでもやっているように2年次英数、3年次英数理の選択ぐらいでこの科目についても3年間トータルすると普通高校の半分の単位数という状況である。したがって国公立希望者については徹底した個人指導による学習意欲の掘り起こしをはかることを心がけて、担任、科、進路指導進学担当職員（今年度は英数国各2名理1名の7名）の間で横の連携を密にし指導する

体制をとっている。表に過去5年間の進路のデータを記す。

進学校とちが社会の経済動向に影響される面も多く、7科(機械、電気、情報、建築、材料、工業化学、土木地質)によって入試時の学力レベルも大きく異なることから年度によるバラツキがきわめて多く、毎年同じような画一的な進学指導はできない。国公立を第一希望とする人数もこの3年間20, 34, 24と推移しており、今年度は現段階で50数名、個人的には対処できない数となり推薦だけでは希望をかなえることも難しく、センター試験でもある程度の点数をとれるような、補修のあり方、教科指導のあり方を模索することが課題となってきている。理科については生物系、環境系に対応するため1年次理科総合B、2年次物理I、3年次選択で物理II、化学I、生物Iを計8単位で履修の予定である。

大学入試の現状が変化しない中でゆとりと両立には困難を感じるが今までの本校の特色を生かしつつ進学できるように今まで以上に生徒ひとりひとりのモチベーションを引き出し高めることができるような進学指導・理科における教科指導を全職員一丸となっておこない日々気持を新たに生徒に接したいものと年度当初にあたり強く思うこのごろである。

	H13	H12	H11	H10	H9
国公立大	15	27	15	10	9
私立大	54	63	57	39	51
国公立短大	6	12	11	5	7
私立短大	11	10	12	11	4
専門学校	76	68	68	83	78
公務員	19	14	18	15	15

**日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会
平成14年度第12回工業教育全国研究大会のご案内**

1. 期 日 平成14年7月13日(土)・14日(日)
2. 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター
渋谷区代々木神園町3-1 小田急線参宮橋駅下車徒歩7分
3. 主 題 日本のゆるぎない基盤と豊かな心を築く工業教育の推進
4. 日 程 第1日 平成14年7月13日(土) 12:30~受付・総会 13:40~パネルディスカッション
「21世紀、世界の工業技術教育」 司会:宮川秀俊(愛知教育大)
パネラー:W.ダガー(バージニア工大)、李隆盛(台湾師範大)、高秀秀儀(横浜市長)、
小林一也(日本工業技術教育学会会長) 15:20~講演「工業教育の今後の課題」
国立教育政策研究所・文部科学省 佐藤義雄 16:20~分科会・教育懇談会
第2日 平成14年7月14日(日) 9:00~分科会・他

5. 研究協議

第1分科会(学会論文)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. マイクロマシンによるものづくり | 田島啄二(マルトー) |
| 2. 地域に根ざした開かれた学校づくり | 塚田雅彦(向の岡工) |
| 3. 工業教育における情報教育 | 工藤雄司(坂戸高)・本村猛能(川村女大) |
| 4. リニアモーターカー制作 | 外間実博(大宮工) |
| 5. 建築技術史研究Ⅱ | 岡田義治(宇都宮工) |

第2分科会(学会論文)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 人にやさしいものづくり(人工骨開発) | 稲毛敬吉(都技教センター) |
| 2. 建築と都市の変遷にみる日本人のものづくり | 油浅勝三(新潟工科大) |
| 3. 人工環境システム | 小林基安(鳳川端工) |
| 4. 工業所有権標準テキストの活用 | 井口 茂(都科技大) |
| 5. 日本におけるデュアルシステムの展開 | 深作真男(富崎大)・本田洋之(球磨工) |

第3分科会(工業教育の活性化)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1. ジュニアマイスター表彰制度 | 梅田政勝(平塚工) |
| 2. 小中高連携によるエコスタディゾーン整備事業 | 河内秀重(羽咋工) |
| 3. 校内LANシステム | 安田政弘(愛知工) |
| 4. 工業教育の推進と知的所有権への取組 | 渡部慶蔵(米沢工) |

第4分科会(教育課程)

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 高校生ものづくりコンテスト | 野上明夫(向島工) |
| 2. 学校活性化事業フロンティア21 | 柏原真治(広島工) |
| 3. ものづくりコンテスト入賞 | 樺野 進(市神戸工) |
| 4. 原動機子づくり実験 | 後藤博行(刈谷工) |

第5分科会(個性化・特色化)

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 本校インターンシップの目指すもの | 猪田良治(白河実) |
| 2. ケナフを活用した環境教育 | 海野美子(高岡工業) |
| 3. 学校活性化への取組 | 東 貞美(都城北) |
| 4. ものづくりによる特色化(定時制) | 木田清一(室蘭工) |

6. 会 費 参加費4,000円 資料費3,000円 教育懇談会費4,000円
7. 宿 泊 国立オリンピック記念青少年総合センター宿舎(シングル50)ほか
8. 申込期限 平成14年6月26日(木)
9. 事務局 東京都立蔵前工業高等学校 教頭 合津敏夫(TEL 03-3862-4488)

工業教育資料 通巻第283号

(5月号) 定価210円(本体200円)

2002年5月5日 印刷

2002年5月10日 発行

印刷所 株式会社仲樹社

© 編集発行 実教出版株式会社

代表者 本郷 充

〒102 東京都千代田区五番町5番地

-8377 電話 03-3238-7777

<http://www.jikyoo.co.jp/>